

平山 五朗（ひらやま・ごろう）

1、プロフィール

昭和 25 年成田千空らと五所川原俳句会をおこし、青森の「暖鳥」会員となる。「万緑」に参加、昭和 23 年には第1回暖鳥賞をうける。農業に従事しながら独特の俳風を拓いた。

<生没>

1926(大正 15)年2月 21 日 ~ 1968(昭和 43)年9月9日

<代表作>

『平山五朗句集』

<青森との関わり>

昭和初年一家が樺太に移住、終戦後五所川原に引き揚げ、農業会に勤めさらに家業の畜産に従事する。

2、作家解説

本名は平山幸三郎。大正 15 年北郡五所川原町に、父良三郎・母まさの長男として生まれる。昭和3年一家は樺太に移住、父は林業に従う。昭和 19 年立大泊中学校を卒業、大洋漁業に勤める。終戦により一家は離ればなれに故郷に引き揚げる。彼は 23 年帰郷し、農業会に勤める。加藤紫明の主宰する「黎明」に拠り俳句を始める。25 年、成田千空・寺山常三・三上悠三郎らと五所川原俳句会を結成、「暖鳥」会員となる。昭和27年中村草田男主宰「万緑」に参加する。カリエスを発病。この頃、「藤白しカリエスの影曲りたる」「遠き凧あやつられても歩きたし」のような独特の俳風に達する。29 年第1回暖鳥賞受賞。家業(畜産業)に従事する。31 年カリエス再発、後2年間ギブスベットで療養生活を送る。

37 年成田みきと結婚、その後数年間は明るく活気ある句風を生む。しかし、家業に追われて 42 年頃から作品の量が少なくなる。43 年9月9日逝去。享年 43 歳。

『平山五朗句集』の後記で成田千空の挙げている句。

水中花吾が死後よりも父母の老後

力欲し吾がつく杖を蟻のぼる

秋のバラ吾子には赤き靴買はむ

3、資料紹介

○『平山五朗句集』

図書

1969(昭和 44)年9月9日

190mm×120mm

巻頭に著者の遺影。全句数 492 を「帰郷」「疾風の杖」「赤い靴」の三部に分けて編集。巻末に成田千空の後記と著者の略歴がある。編集・発行は五所川原俳句会。